

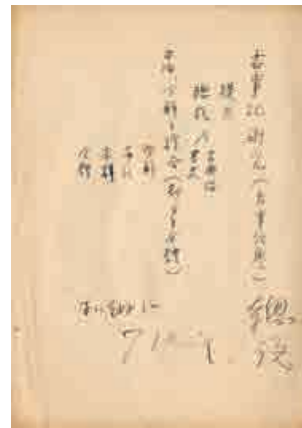
企画展
Special Exhibition

祭祀と神話 神道入門

Rituals and Myths
of Shinto

神道とはどのようなものか、それを説明することは極めて難しいと言われます。その原因には、神道が明確な教祖や教典、教義をもたないことが挙げられます。戦後、國學院大學で教鞭をとった西田長男（一九〇九～一九八一）は、神道は、その時々歴史的事実の上に表現されるもので、他のどこにも求めることはできないものとした（『日本神道史研究』総序）。神道を理解する上で、神々を祀る（祭祀）と、神々の物語である（神話）は欠くことのできないものです。『古事記』『日本書紀』に代表される古代の文献に記された（神話）は、仏教などの影響を受け、中世に新たな物語を生み出します。（祭祀）の行い方やそれをめぐる様々な言説は、時代とともに整えられ、中には変化したものもあります。（祭祀）や（神話）は、紙に記されたり描かれたりして現在まで伝えられてきました。これら古典籍や史料を読み解くことは、歴史的事実の上に現われた神道を知るために最も有効な方法です。本展示では、（祭祀）や（神話）はどのように記され、どのように変化したのかを、古典籍や史料を通して紹介します。

それまで限られた人達しか目にする事ができなかった古典作品は、出版文化の隆盛によって一般の人にも目にすることが可能になり、近世には古典研究も盛んに行われるようになります。古典研究の担い手となった国学者が登場するのも近世のことでした。国学者が古典の本文校訂や注釈を行ったことで、古典の研究は一段と進むこととなります。明治維新後も国学者に連なる者たちによって、古典研究の重要性が説かれ、設置された学校の一つが皇典講究所です。皇典講究所は、國學院大學の経営母体でした。つまり、本学にとって古典研究とは、近世から連綿と続く学問伝統であり、本学の学問史は近代人文学の歴史と言っても過言ではありません。



武田祐吉自筆講義メモ (本学所蔵)

参考図書のご紹介

岡田莊司編『日本神道史』(吉川弘文館、2010年)
阪本是丸、石井研士編『プレステップ神道学』(弘文堂、2011年)
伊藤聡『神道とは何か 神と仏の日本史』(中公新書、中央公論新社、2012年)
神社本庁監修『神社のいろは』(扶桑社、2012年)
神社本庁監修『神話のおへそ』(扶桑社、2012年)
岡田莊司、笹生衛編『事典 神社の歴史と祭り』(吉川弘文館、2013年)

概説

中村啓信訳注『新版 古事記』(角川ソフィア文庫、角川書店、2009年)
坂本太郎ほか校注『日本書紀』全5巻(岩波文庫、岩波書店、1994年)
青木紀元『祝詞全評釈 延喜式祝詞 中臣寿詞』(右文書院、2000年)
中村幸弘、遠藤和夫『「古語拾遺」を読む』(右文書院、2004年)
『日本書紀・古語拾遺・神祇典籍集』(國學院大學貴重書影印叢書、朝倉書店、2016年)

神話

監修：岡田莊司 (本学教授)

執筆：渡邊卓 (本学助教) … 「古代の神話」「近世・近代の古典研究」
大東敬明 (本学准教授) … 「はじめに」「新たな神々の物語」
鈴木聡子 (本学助教) ・塩川哲朗 (本学研究開発推進機構研究補助員) … 「祭祀」

編集：佐々木理良 (國學院大學博物館学芸員)

企画展

祭祀と神話 神道入門

会期：平成29(2017)年2月11日(土)～4月9日(日)
会場：國學院大學博物館 企画展示室



國學院大學博物館
Kokugakuin University Museum

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 [國學院大學渋谷キャンパス内]
TEL：03-5466-0359 WEB：http://museum.kokugakuin.ac.jp/

本展示は國學院大學校史・学術資産研究センターで進めている研究事業「國學院大學の学術資産の研究と展示公開」の成果の一部です。

講演会 Symposium

斎宮歴史博物館・國學院大學博物館共同シンポジウム
「伊勢神宮と斎宮」in 東京・渋谷
2月11日(土) 13:00～17:00 (12:30～受付開始)
会場：國學院大學 学術メディアセンター1階 常磐松ホール

無料
要予約

博物館 神道講座 Museum Talk

全4講すべて参加されることで、おおまかな神道の歴史がわかります。

第1講 2月25日 渡邊 卓 (本学助教) 「神道古典としての記・紀神話」
第2講 3月4日 岡田莊司 (本学教授) 「古代の国家祭祀と祈年祭」
第3講 3月18日 大東敬明 (本学准教授) 「中世日本の神話と儀礼」
第4講 4月1日 渡邊 卓 (本学助教) 「記・紀研究と國學院」

各回 14:00～14:30 ◎時間になりましたら博物館内ホールにお集まりください。

◎イベントの詳細、その他のイベントについては國學院大學ホームページ・イベント一覧よりご覧ください。

無料
予約不要

古典籍や史料から知る神道

神話

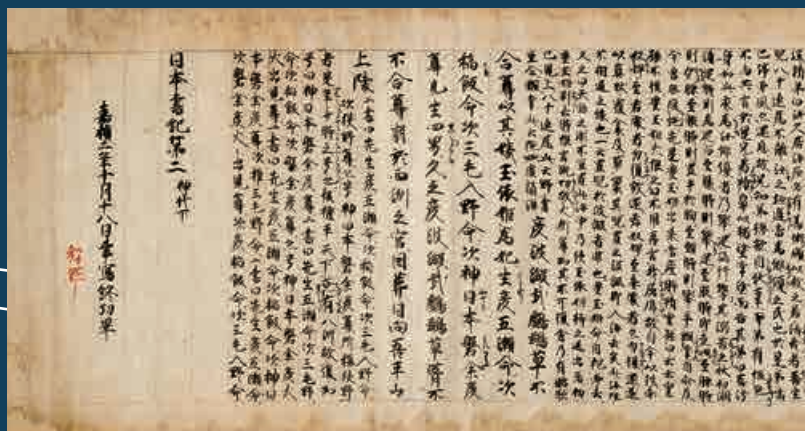
古代の神話

〈祭祀〉と〈神話〉は切り離すことのできない関係にあります。日本神話に描かれる神々の活躍は『古事記』や『日本書紀』に記された物語が代表的なものとして伝えられています。しかし、日本の神々の物語は「風土記」や『古語拾遺』、『先代旧事本紀』、『祝詞』といった、複数の文献にも残されており、その豊富な伝承に驚かされます。確かに神話には類似した話形やモチーフがありますが、それぞれの文獻によって伝承は異なり、独自性が強いものもあります。古代の神々の姿や物語は多彩であり、「日本神話」とは一つに限られるものではないのです。むしろ、それらの違いを知ることが、日本神話の普遍性を学ぶことへとつながるのです。

新たな神々の物語

神道や神々の物語は、古代から変化せずに受け継がれてきたわけではありません。

六世紀に仏教が伝来すると、やがて神と仏との関係を示す説話が作られ、仏教をはじめとする外来の概念を用いて神や神道を説明するようになります。中世になると更にこの動きは大きく展開します。『日本書紀』などに記された古代の神話や、祓の際に唱えられた「中臣祓」は、当時の人々の思想に合うように、再解釈・再構成され、数多くの新たな神話がつくられていきました。さらに神々や神社の由来を語った物語（神社縁起）も、作り出されます。これらは、文学、芸能にも大きな影響を与えました。



嘉禎本『日本書紀』（本学図書館蔵）（展示：2/11～3/12）

古代から我が国では神を丁寧な作法で祀ってきました（祭祀）。人々は様々な場において神々を祀りますが、それらを大きく分類すると「天皇が中心となり、あるいは国家全体で行う祭祀」（天皇・朝廷祭祀）・「神宮で行う祭祀」（神宮祭祀）・「全国各地の神社において行う祭祀」（神社祭祀）に区分することができます。平安時代になると、それまでの祭祀を基盤として、次第や神への捧げ物が整えられていきます。現在の神社の祭祀は、この平安時代に形成されたものが基本になっています。

天皇・朝廷祭祀



古代の祭祀には、律令（法律）に規定されるような朝廷（国家）の〈祭祀〉と、律令を超越した存在である天皇の〈祭祀〉が存在します。後者は古代国家における重要な〈祭祀〉と認識されていました。

天皇祭祀の代表的なものに毎年十一月に行われる新嘗祭があります。

この祭祀は日本国中の平安と豊穣を願って、天皇の祖神である天照大神に天皇自らが神饌をお供えして祭るものです。新しい天皇が即位した後、初めて行われる大規模な新嘗祭を大嘗祭と言います。

神宮祭祀

高天原より瓊瓊杵尊（ニギハヤヒ）が降る（天孫降臨）際、天照大神より鏡（八咫鏡）を授かります。神宮（伊勢神宮）は、この鏡を奉斎する皇大神宮（内宮）を中心とし、豊受大神宮（外宮）をはじめとする数多くの神社から構成されます。

神宮では古代より、三節祭と呼ばれる年間三度の恒例神事（六月、十二月の月次祭、九月の神嘗祭）が重視されてきました。また、二十年に一度、殿舎を造り替える式年遷宮が古代より行われており、神宮における最も重要な〈祭祀〉とされています。



『内宮御神宝絵巻』（本学神道文化学部蔵）（展示：3/16～4/9）

神社祭祀

全国各地に鎮座する神社では、古代から様々な祭祀が行われてきました。代表的な神社の〈祭祀〉として、氏族が各々で奉斎する神（氏神）を祀る氏神祭祀が挙げられます。例えば、奈良県の春日大社で行われている春日祭は、藤原氏の氏神祭祀として奈良時代より行われてきました。また、〈祭祀〉を行う神職が、祭神の神話に由来する場合もあります。京都府の賀茂別雷神社（上賀茂神社）・賀茂御祖神社（下鴨神社）の神職をつとめていた「賀茂県主」の人々は祭神と由縁深い一族として知られています。



春日祭指図（当館蔵）



『貞享四年大嘗会図』（本学図書館蔵）